

一 般 質 問 通 告 表

令和6年第3回始良市議会定例会（9月5日）

8. 馬場 修二	1. スポーツ振興・推進の取組について 2. 校区コミュニティ協議会運営について	昨年は、始良市も会場となった鹿児島国体の開催、本年はオリンピックで盛り上がった。スポーツは年齢も幅広く、多数の種目があり、本市でも多くの方々が元気よく様々な競技に携わっている。 そこで以下について問う。 （１）始良市が考えるスポーツの定義を示せ。 （２）国体の経験を今どのように生かしているのか。また、今後どのように生かしていくのか示せ。 （３）障がい者のスポーツの取組は何を行っているのか。また、その際に配慮していることは何か。 （４）障がい者が気兼ね無く利用できる体育施設はあるか。 （５）障がい者、健常者とを隔てることなく行うスポーツ事業を計画する考えはないか。 （６）中学校部活動の地域移行について、本市の課題、課題解決に向けた現在の考え方を示せ。 （７）小学校少年団の地域活動への協力体制はどのように考えるか考えを示せ。 （８）１１月に実施予定の始良・伊佐地区のスポーツ推進員に対する研修において、障がい者スポーツについての講演が計画されている。その目的と求める成果を示せ。 ８月８日に発生した地震では、本市に大きな被害は無かったものの、今後、南海トラフ地震をはじめ、大規模災害時の対応は常に考えておかなければならない。危機管理課からの情報発信は細やか	市 長 教育長 市 長 教育長
----------	--	--	---------------------------------------

		に行われているが、いざ災害発生時には、各自治会や校区コミュニティ協議会と行政の連携は欠かせないものになると考える。そこで以下について問う。 (1) 各校区コミュニティ協議会の防災計画作成は進んでいるか示せ。 (2) 8月8日の地震を受けて、各校区コミュニティ協議会へは、今後の対策として、どのような周知を行ったか。また、今後の対応を考えているか。 (3) 近隣の校区コミュニティ協議会どうしの連携や情報交換の場として、行政主導による中学校区コミュニティ協議会の設置の考えはないか。	
9. 森川 和美	1. 新庁舎での業務について	新庁舎での業務開始から3か月以上が過ぎたが、この間に市民からの苦情や要望等はなかったか。 また、行政サイドにおいて、業務内容の位置、職員配置の見直しなどの必要はないか。	市 長
	2. 長期夏休み明けの子ども対策について	長期の夏休み明け前後は、子どもたちに心の変調が表れやすい時とされる。特に夏休み明けにかけては、自ら命を絶つ子どもが増える傾向があり、注意が必要である。また、不登校になる時期であるとする。 本市の過去の状況と、児童生徒の心や体調の変化に早期に気付けるよう、教員、教育委員会そして保護者と、どのような連携、指導、対策を講じていく考えか。	教育長
	3. 災害時の子どもの心のケアについて	今年1月の能登半島地震、8月8日には日向灘沖地震(震度6弱)、9日には神奈川県西部(震度5弱)で大きな地震が発生した。いつどこで巨大地震が発生するかわからない日本列島である。	市 長 教育長

		そのような状況下で、大規模災害が発生した場合の子どもへのケア対策があまり論じられないと同時に、不十分であるとする。専門家によると、学年ごとに適切なサポートを講じるべきとされている。 小学校低・中学年、高学年、そして中学・高校生と年齢によって適切なサポートが大事である。学校でのサポート、親のサポート、行政側の支援体制はどのようなになっているか。	
	4. ホテル誘致について	先日配布された第3次始良市観光おもてなし計画によると、観光環境における課題として、市内に大規模宿泊施設が少なく、多くの宿泊客を受け入れることができない現状であること、立ち寄り型の観光から滞在型の観光へと観光客の動向をシフトさせていく必要があること、また、外国人観光客を積極的に受け入れる宿泊施設や飲食店の確保などに取り組む必要があるとされている。 本市は県下唯一の人口増や、大型商業施設イオンを含め多くの企業進出などにより、宿泊施設は必要であるとする。 旅館・ホテル施設誘致補助金（平成25年～27年度）が設けられたが、誘致に至らなかった。 再度レベルアップした補助金内容にして、誘致すべきと考えるがどうか。	市 長
	5. 災害（地震）に強い水道行政について	8年前の熊本地震の際には、熊本市内に点在する市所有の井戸96本全てで濁水が発生し、一時的に取水停止、さらに主要な水道管のうち耐震化が済んでいなかった箇所が損傷したため、被害が拡大し、市内全域で約32万6,000戸が断水する事態となった。 1月に発生した能登半島地震において	市 長

		も断水が大きな問題となった。 (1) 本市の耐震性が低い老朽化した水道管の更新状況を示せ。 (2) 主要な水道管のうち、想定される最大規模の地震に耐えられる割合を示す耐震適合率を示せ。	
10. 竹下日出志	1. 終活サポート事業について 2. 熱中症対策の充実について	人生の終末を迎えるにあたり、介護、葬儀、相続などについて希望をまとめ準備を行うこと（終活）について、市民の不安や悩みを解消し、今後の生活をより豊かで充実した事業が求められている。 (1) 豊島区では、「もしもの時」に必要な情報を、家族や大切な方に伝えられるように「終活情報登録事業」を実施している。 人生の最終章に向けて、自身のやりたいこと、備えたいことなど、その思いをカタチにする「豊島区版エンディングノート」を配布している。本市でも、終活情報登録事業や始良市版エンディングノートを作成する考えはないか。 (2) 身寄りのない単身高齢者の方が地域で安心して暮らせるように「もしもの時」のサポートを契約に基づいて行う、備えてあんしん支援事業を行っている。本市でも、実施する考えはないか。 (1) 一時的に冷房設備を有する地域の公民館や図書館、スーパーなどを「指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）」に指定する動きが全国に進んでいる。本市の設置状況と、今後の推進計画をどのように考えるか。 (2) 熊谷市では、登下校時の児童の熱中症対策として市オリジナル晴雨天兼	市 長 教育長 市 長 教育長

	3. デジタル障害者手帳の導入について	用傘を全児童に配付している。本市でも、日差しから身を守るため晴雨天兼用傘を配付する考えはないか。 障がい者が、障害者手帳の情報をスマートフォンに取り込むことができる「ミライロID」を本市でも導入する考えはないか。	市 長 教育長
11. 新福 愛子	1. 地震後のインフラ等の総点検について 2. 加齢による認知症の早期発見と対応を促進するヒアリングフレイルとユマニチュードについて	去る8月8日16時43分頃発生した地震では、本市においても震度5弱という大きな揺れがあった。台風のように予測できる災害と違い対策の難しさを再認識した今回の地震であった。今後の防災・減災の強化のための各種総点検の計画と課題を問う。 (1) 庁舎・公共施設・学校施設 (2) 上下・簡易水道施設 (3) 道路や標識・ブロック塀・ロードミラー 高齢化が顕著となる2025年は来年、また団塊ジュニア世代が65歳以上を迎える2040年も間近となってきた。高齢者が安心して暮らし自分らしい人生を全うするために以下を問う。 (1) ヒアリングフレイルとは耳の虚弱（聞き取る機能の衰え）であり、早期に本人や周囲が聴力の低下に気づくことが認知症の予防に繋がるといわれている。東京都豊島区では民間企業が開発したアプリを利用し、タブレット端末を使い無料のヒアリングフレイルチェックを行うことをきっかけに医療機関での診察を促している。先進地の事業を調査し、本市でも取り組む考えはないか。 (2) 加齢に伴う難聴は認知症の危険因子の一つと言われ、医師や専門家の助	市 長 教育長 市 長

		言のもとで自分にあった補聴器を積極的に活用することが認知症の予防にも繋がるということが知られている。市として補聴器の購入費補助を検討できないか。 (3) ユマニチュードとはフランス語で「人間らしさを取り戻す」という意味で、認知症の人とスムーズにコミュニケーションを図る技法により、相手に自分が大切にされているということを感じ理解してもらえるよう伝えるための「見る・話す・触れる・立つ」4つの技術をまとめたもので、フランス発祥の認知症ケア技法である。日本では2012年に導入されて以来、医療や介護の現場で働く方だけでなく自宅で家族を介護する場合にも実践することができ全国で広がっている。一人ひとりの尊厳が守られ、誰もが最期まで自分らしく住み続けられる始良市をめざし、ユマニチュードに取り組む考えはないか。 (4) 認知症の命を守る行方不明対策の強化についての見解を問う。	
	3. 戦後80年にむけた平和行政について	世界でも今なお戦火は消えない中、いよいよ来年は戦後80年を迎える。昨年の一般質問後の進捗等、以下を問う。 (1) 来年、第20回を迎える錦江校区コミュニティ協議会主催「8. 11空襲の日・平和の集い」への市の取組 (2) 来年市政施行15年を記念して(例)「平和のまち」宣言の検討 (3) 市内に残る戦争遺跡や、これまでの様々な記録・資料等を後世に残す支援と保存場所の検討	市長 教育長